

氏名	和泉 順子 (准教授)
こんな研究をしています	情報通信技術は今や社会基盤の一つとして普及発展しています。しかし技術は、時代や社会動向に依存して技術的な開発・設計の方向性が変わり、問題意識や倫理的視点もまた変わってきます仮想世界の情報が現実世界に大きな影響を与えるようになった今、情報はどのように保護や制御される必要があるのか、情報セキュリティの観点からも国際社会との連携や協調を含め研究を続けています。
こんな成果を挙げています	<ul style="list-style-type: none"> - 和泉 順子, 「エストニアにおける電子政府関連サービスの社会展開に関する調査報告」, 異文化, 2020. - 和泉 順子, 桂田 浩一, 児玉 靖司, 重定 如彦, 滝本 宗宏, 入戸野 健, 山口 和紀 監修, 『情報学基礎』, 培風館, 2020. - 和泉 順子, 櫻井 茂明, 中村 文隆, 『情報システム概論』, サイエンス社, 2018. - 和泉 順子, 「第 20 回 ITS 世界会議参加報告」, 日本ソフトウェア科学会論文誌「コンピュータソフトウェア」, Vol131, No. 2, pp. 33-37, 2014. - M. SATO, M. IZUMI, H. ITO, K. UEHARA, J. MURAI, “Criteria for Privacy and Integrity Protection in Probe Vehicle Systems”, the 2011 ITS World Congress, Oct. 2011.
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	インターネット上を流通する情報として個人情報やプライバシーに関わる保護技術、国際標準、各国の動向などの研究調査などに携わっていました。これに関連して、車両の情報化や自動運転にも関わる ITS(高度道路交通システム)分野の研究開発やシステムの普及促進、災害時における道路行政やプライバシー情報などの国際連携や関連法規動向にも関心を持っています。また、2018年10月から10ヶ月間エストニアで在外研究を行い、電子政府とそれを支える基盤技術としての X-Tee, eID 等と、その社会展開に関する調査研究にも携わっています。
こんな授業を行なっています	多文化ネットワーク論 A/B の授業で、知っておくべき計算機科学及びネットワーク技術の用語や基礎を確認します。その上で、関連分野の最新動向技術を紹介しながら、情報科学分野の技術が広く社会で使われるようになるために、どのような準備が必要なのか、何が問題でどのような解決方法が考えられるかを議論します。一方的に提示するのではなく、議論を通じて今何が問題なのか、今後何が必要になるのかを自ら考えるための授業を行ないます。
学会や社会でこんな活動をしています	インターネットに関連する産官学の研究プロジェクト (WIDE) に携わっています。また 2018 年にエストニアのタリン工科大学へ在外研究に行くまでの約 10 年間日本ソフトウェア科学会の論文編集委員を務めた他、関連する研究会の実行委員・プログラム委員なども務めていました。経済産業省基準認証研究開発事業「プローブ情報システムの匿名性・セキュリティ評価基準などに関する標準化」など、他大学・組織との共同または委託研究で情報技術の国際標準化にも携わった経緯から、技術の国際標準化にも関心を持ち続けています。
私が思う多文化的かつ、インターカルチュラルな人物	たとえば、梅棹忠夫先生。 日本の文化人類学のパイオニアとして知られる梅棹先生は、インターネットという名前も概念もなかった 1960 年代に「情報産業論」を発表し、情報化社会のグランドフレームを提示されています。何に対しても思考停止せず、様々な分野を学び、視点や方法を試行することができる。そのためには、異なる文化的視点や方法論を知り、多様な知識を今後の可能性も含め、自分の思考の糧として柔軟に活かすことが重要だと思います。